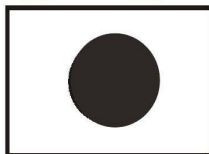


日中がわぐち

No. 47

2012年12月25日発行

ホームページ
www.k-jcfa.com



川口市日本中国友好協会
川口市上青木1-20-3
TEL 048-253-2177
発行責任者 栗原喜一郎

編集・制作 電腦倶楽部

ことばと食、そして……
理事長 栗原喜一郎

「春巻で〜す」

「私はゴマ団子がおいしかったです」

「僕は、パンダまんじゅう」
親子教室中国大使館訪問の交流会の一場面です。川口市の小学生と中国の小学生との話し合いの初めは、今年も緊張して発言が少なく、硬い雰囲気でした。話し合いの途中休憩となり、大使館で用意していただいたおやつを食べると、笑い声が起こり親しくなり軽く話し合われたのです。人と人の心の交流に大きな役割を果たすのは「ことば」だと思います。その言葉を軽く円滑に交換させるのに、共に食事することがさらに大きな役割を果たすものだと強く

感じた夏でした。日本料理は刺身・天ぷら・懐石ですが、中国料理には北京料理、上海料理、杭州料理、広東料理、香港料理、四川料理、西北料理等があります。それぞれを共に食べると深く温かい友好の絆が結べると思いました。

終わりに近づいた時、汪婉中国大使夫人が、川口の小学生一人一人にお土産を渡してくれました。縫いぐるみのパンダです。嬉しさ一杯の子供たちの表情でした。自分の机の上に置いたパンダは後々まで大使館訪問を思い出させ、長く友好の心を深めてくれるものと思いました。

今年の川口日中の中国訪問旅行は「湖南の旅」でした。張家界、武陵源、鳳凰古城等を視察しました。半年過ぎた今、わたくしが思い出すのは洞庭湖、岳陽楼、岳麓書院で

す。帰朝後、漢詩を吟じながら、その風景の記録を深めたのです。



李白の「洞庭に遊ぶ」や、杜甫の「岳陽に登る」そして岳麓書院で教授した朱熹の「酔つて祝融峰を下る」等でした。

心と心の絆を結ぶのは「ことば」、さらに深めるのは、共にする食事、土産、歌詞なものと、今年の友好活動から学びました。

二〇一二年度

川口市日中総会

二月十一日、江南春において川口市日中友好協会の総会を開催いたしました。

今年の総会前日に当川口市日中友好協会の創始者、坂本隆太郎氏(九十二歳のご逝去)の報に接し、会員一同黙祷より総会の開始となりました。



昨年度の事業報告、会計報告、今年度の事業計画、予算

案の承認を受け、つつがなく審議を終了し引き続き日中友好新春懇親会に移りました。

川口日中新春懇親会

中国大使館友好交流部参事

官張成慶氏、書記官呂新鋒氏ほか十四名のご来賓、中国語講師六名、協会員五十名を迎え、盛大に開催されました。お迎えしたYATOさんが飛び入りで演奏をご披露してください、にぎやかな開幕となりました。



舞台上で参事官と県日中会長、川口日中会員の和やかな交流風景

懇親会では来賓多数の方のご祝辞をいただき、参加者一同草の根友好交流の必要性を改めて考えさせられました。

坂本隆太郎氏

ご逝去を悼む

市東文子

川口市日中友好協会顧問、坂本隆太郎氏のご逝去の報に接し、哀惜の念に堪えません。日中友好のために並々ならぬ情熱を注がれ、その生涯を捧げられた坂本氏が二月十一日、奇しくも川口市日中総会が始まる十数時間前に天国へ旅立られました。

県日中を立ち上げられ、川口日中では組織作りから結成まで努力に努力を重ねられました。

中国語教室開設、中国友好訪問団派遣、貴州希望小学建設、「にいはお」発行、たたら祭り水餃子実演販売、小学生親子の中国大使館訪問、中国語スピーチコンテスト参加、中国映画鑑賞会

開催などの氏の功績を忘れてはなりません。

やさしい人なつつこい人柄と笑顔で、みんなに慕われ、尊敬された坂本さんから多くの中国人講師や受講生がお世話になりました。日中友好に対し多大な貢献をされ、その発展に大きな足跡を残された先達を失いましたことは、私たちにとりましても大きな損失です。

しかし、坂本隆太郎さんお見守りください。私たちは力を合わせて、草の根運動の灯を永遠にともし続けます。

謹んで哀悼の意を表すとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

坂本隆太郎氏のご葬儀は、二月十四日に執り行われ、多数の協会員が最期のお別れをいたしました。

川口中国語教室

第三十四期入門A修了式

幹事 定兼 雅義

三月二十七日に協会教室で第三十四期生の修了式が行われました。昨年の四月に入門し、四十五回の授業を無事に終えられた方々です。

入門時は男性二名、女性七名の九名でしたが、仕事の関係で退学された方、中国に引越して退学された方が出た反面、途中から入学された方もあり修了式を迎えられた方は七名でした。

加藤事務局長から一人ひとり名前を呼ばれ、修了証書を手渡された方々の顔には、一年間良く頑張つて無事に修了することができた達成感と、来年度の初級クラスでさらなる一步に挑戦する決意が満ちあふれていました。

ご指導いただいた鮑先生は料理も得意で、自宅で餃子パーティーを行つてクラスの纏まりにもご尽力していただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。



引き続き来年度の初級クラスでもよろしく願っています。

今日修了された皆様とは初級クラスを修了され一緒に勉強できる日が来るのを楽しみにしていますので、挫けずに頑張ってください。

第三十四期入門B修了式

幹事 吉田 博

幹事 武田 千恵子

三月二十四日に入門Bクラスの修了式が行われました。

金曜日の夜七時ということもあり、開講当初は十九名だった受講生も、仕事の都合や、そのほか、授業時間などの都合で、最終的には九名の修了生を送りました。

夏の暑気払い、秋の中国語発表のつどい、また三月の謝



恩会を兼ねた三宅悠太君の誕生会などいろいろな行事を交えての一年でした。

残った九名はやはり学習意欲も旺盛な方々ばかりです。で、二年目の初級クラスのみならず、今後も受講を継続していただき、日本と中国の友好にさらなるご協力をお願いいたします。

第三十五期入門A開講式

クラスの近況

幹事 森 基悦

今年の入門Aは男性四名、女性二名で、四月三日に開講されましたが、業務の都合で一名欠け、現在五名のこじんまりしたクラスです。

全員、初めての学習とあつて簡体字・拼音にお目にかかり戸惑いながら学び、八ヶ月が経ちました。

現在本文のロール・プレーをしたり、習得した単語や語順を応用した簡単な会話を楽しんで（？）います。



最近、学習意欲も出てきたのか全員『中日辞典』を買って整えるなど、傍から見ていると心楽しくなります。

縁あって集い、始めた中国語です。これから先、多くの壁に突き当たることと思いますが、「忘れてもいいから続けること」を念頭に精進して

いつてもらえたらいいなと思っています。

『にいはお』第三十四号

第二回編集会議

四月五日・二十一時より、

「にいはお」第一回の編集会議を前田・内野・本多・市東の四名で行い、発行は六月二十日と決定いたしました。入門Bは七月開講のため、今年度は原稿なしとなりました。

『にいはお』第三十四号

六月二十日発行

市東 文子



今年には昨年の「東日本大震災」の影響を受けて、栄町公民館、金曜日夜・入門Bクラスの開講が七月六日になったことで、このクラスの文集と資料が残念ながら掲載されませんでした。来年に期待しましょう。

教室全員の熱情が伝わる立派な文集ができあがりました。老師からは来日後の苦労談が笑いへと涙を交えて書かれ、また有意義な中国語のマスター法が寄せられました。

入門Aクラスの皆様は中国語を始めた動機を思い思いに綴ってください、今後が楽しみです。

老同学は旅行記や日常の身近な出来事などを面白可笑しくことばにして、とても興味深い文章です。

「画報」には「日中かわぐち」この一年の輝かしい活動

が記録され、想い出深く、懐かしささえ感じられます。

寄稿してくださいました皆様と熱心な愛読者の方々に心を籠めて御礼申しあげます。

入門Bクラス開講式

幹事 石井 勤之

七月六日（金）午後七時より、栄町公民館第2会議室において、第三五期となる入門Bクラスの開講式が挙行されました。

教室会場となる栄町公民館の耐震補強工事の影響で、例年より二ヶ月遅れの開講となることから、受講生が集まるか心配しましたが、さいわい十七名の応募がありました。開講式では、この先九ヶ月間、ご指導いただき、丁寧講師や栗原川口日中友好協会理事長および加藤事務局長、本多

教室代表を始めとする協会役員の方々のごあいさつとオリエンテーション、受講生の自己紹介や各教室の先輩受講生の方々からの激励の言葉が寄せられ、緊張の中にも和やかに執り行われました。



開講以後四ヶ月程経過した現在、丁講師の熱血ご指導のもとに、毎週笑い声の絶えない楽しい授業が行われています。授業が進むと同時に面白い楽しい教室になること請け合いです。大変楽しみにしております。

川口市日中友好協会
湖南省視察旅行報告
副事務局長 菅原 昭

栗原理事長を団長に十五年目の研修旅行を国交正常化四十周年記念として実施いたしました。長沙を中心とした旅でしたが、日本人旅行者の少



ない地方なので現地ガイドの陳中清さんは日本語を忘れてしまいうさだと話していました。多くの日本人旅行者が訪



れてほしいとのことでした。

今回の旅は世界遺産武陵源国家森林公園、黄龍洞四層の複雑な構造を持つ地底川をボートでめぐり、大自然の驚異を体験し、鳳凰古城散策、地上のボートでの舟遊びも楽しい思い出になりました。

岳陽大学の敷地の広さ、洞庭湖の船での遊覧も今までにない旅であったと思います。

食事も名物郷土料理が中心で、竹筒料理、菌類料理（土

家族・苗族）が本当においしく皆さんに喜んでいただけたいと思います。

旅行六日目に第十五回記念としてホテルのクラブの一室を借り切り、カラオケ等楽しくパーティーを行いました。また、再度行きたい場所になりました。

今までの旅行で私たちは中国世界遺産（文化、自然、複合）二十九ヶ所視察することができました。これからも体力の続く限り、旅を計画していきたいと思っております。来年は多数の要望もあり、雲南省少数民族と秘境を訪れる旅（麗江・シャングリラ・シーサ・パンナ・成都）を十月ごろに計画中です。最後に企画にご協力いただいた前田さん、浅倉さん、スルーガイドの西安中信旅行社張天兵部長に感謝しあげます。

川口親子教室
中国大使館訪問

加藤 展術

七月二十六日、二十七回目の川口市日中親子教室に在家小学校の児童・保護者三十六名、中川校長と教師二名、協会から理事七名が参加しました。



午前八時三十分出発、バス車中で飯塚理事が中国語を指導。午前中は都内北の丸の科学技術館で日本の最先端科学

技術を見学し、子供同士、あるいは親子で展示物の見学や実験を行った後館内にて持参のお弁当でお腹を満たした。



午後二時に大使館へ到着

呂参事官の案内で敷地内の施設や庭園を見学後、館内ホールで、最初に中国武術の映画を鑑賞、流派の紹介や武術学校のほか、名山や寺院や京劇の紹介もあり、子供たちは中国の文化に興味を持ったことと思います。

映画鑑賞後、友好交流部参事官、汪婉大使夫人が挨拶され、夏休みに入ったばかりの

児童保護者、教師および川口中のメンバーの訪問に対し温かい歓迎の言葉を頂いた。



次いで中川校長から大使館側の好意に対する感謝の言葉と子供たちがこの機会を契機に国際的視野を広げるよう希望するという挨拶があった。

その後大使館職員の子供と母親が入場し、双方の趣味や勉強、余暇の過ごし方、将来の夢などについて話し合い交流をもった。

最初はとても緊張している

ように見えた子供たちも文化の違いや学校生活に対する話題を積極的に話すようになり、大使館に用意していただいた春巻やゴマ団子、パンダのマントウ等を頂くと一気に緊張がほぐれ打ち解けた雰囲気になり、さらに日中の子供たちは交流が進み楽しい時間を共有することができた。また子供たちにはパンダのぬいぐるみがプレゼントされ大喜び、良い記念になりました。

最後に栗原理事長が謝辞と挨拶を申しあげ、正面玄関前で記念撮影後、帰途についた。

